

# 子ども・親子の参画による地域づくりへの提言

**楽しむこと**  
まずはみんなで楽しむことが必要  
子どもにとっても、大人にとっても、気持ちよく遊べる環境が整っていることが良い地域  
大人も楽しめる地域づくりを

**遊びながら**  
子どものなぜ？を社会に活かす試み。しかし、子ども参加イベントは  
予定調和のものばかりで、子どもの記憶に残らないし、成果も残らない

**子どもの事情に合わせて実行する**  
子どもになにかをやらせるのは大切だと思いますが、  
その時間がない子もいます。受験をする子もいます。 強制しない  
強制はよくないのでは？

**企画に参加させること**  
イベント主催者として、運動会、生徒に企画運営をやらせるのは賛成だが、  
小学生では、能力的に実施には難しいのではないかと  
小学生でも、企画運営させる方法はあるのか？ 子どもにできることはある  
自分たちで気づかせる

**別をほめないこと**  
ポイント、子どもの主体性・自主性による参画  
安全・防犯・教育力・子育て環境・長力など多  
面的に「地域のカンソーカル・イベント」を高める  
ゴミ拾いなどの「ボランティア活動」  
お祭りなどの「イベント活動」  
少年野球などの「スポーツ活動」  
文化祭などの「学校活動」  
親と子が共にいることが、地域をより良くする基本  
親と子どもが、地域に参画し、保護者・学校・地域の三位一体の教育を実施。  
ひいては地域内での世代を超えた交流が、一番大切  
失敗体験もさせる  
失敗も自己評価させる  
プラス面を評価する  
あまり子どもに多くのプレッシャーを与えずに良い方がよいのではないかと  
そこで、子ども及び親子が行動、活動、運動などが企画できたらいいなあ  
大人のお膳立てでは意味がない

# 社会開放型子育て観への転換

**子どもはまちの一人**  
助け合っていかなければ、これからは生きていけないということを震災から学んだ。  
どこの人がどんな人なのか分からない時代、地域に生きることの住民意識が高まる。  
仲間ができる  
わが子に責任を持つ  
子どもを社会(まちの一人)と関連して考える。  
住民意識が薄れている  
親が「自分一人で子育て」で子ども教育を抱え込む、教え込まずに子どもが自ら学べるようにもたせる  
地域の多様な人々の姿を見ることが大切  
他者のふれあいにより、社会を感じることであり、親の背中以外に、  
多数の背中を覗くことで、親も視野は広がる  
多様な人々の集まりが見えること  
社会(地域)でのいろいろな経験・体験を、近所のオジサン・オバサン・お兄さん・お姉さん達と共に行うことで、  
子どもの多様性・主体性・考える力・協調性・好奇心・社会参画意識などが育まれる  
「親との関係(近所)にオジサン・オバサン」と「社会体験(子どもにとっての社会は地域)」を  
子どもが得ることは、親の子育てに多様なプラス効果がある

# キッズニアでほめない参画体験型職業教育の提言

**キッズニアの良さ**  
キッズニアもいろいろけど、今日の「親子で田んぼ」のほうが楽しそう  
地域参画体験型職業教育は、等身丈のリアルな職業像。  
キッズニアは子ども向けシミュレーション、ワザワザできる。だが、失敗したくないのでフォローチャールは抑圧される。  
飛行機のエンジンを止めて、墜落させてもかまわない。ワザワザの力をつなげてあげたい。  
親がわが子をニートにしないためにキッズニアに連れて行く消費文化。親も子どもも学習する地域文化。どちらもありか。  
大学生のキャリア教育・・・リアルな社会体験で社会開放型職業観への転換を図る。そして、今日の学生スタッフのことも。  
キッズニアも今年4月より職業体験を取り入れたそうだが、その日一日の「職業体験」だけでいい(「社会文化」も進んでほしい)  
キッズニアで楽しめることはビジネスモデル。いいところはほとんどまねていいけど、地域向け変換が必要  
街工場系キッズニア。若い、きつい、危険の3要素を揃えて、何でもないのがいい、大変を体験。  
子ども総合コン(豊島区)のイベント「選りわけの、マナー・メイク、選択職を養う」  
一日の忙しさを「楽しかった」ではなく、評価できる成果を味わいたい  
我が国はこれに子どもたちの職業意識が低い  
キッズニアのように子どもを「お客様」扱いしたり、一般的職業体験のように子どもを  
地味な仕事で「アシスタント」に登場してもらって、子どもが「進歩者」に加えることが  
何よりも大切で、それがキッズニアを超える実践となる。  
商業主義のキッズニアよりも、農家さんとの人間関係を結ぶこと、  
土と自然に触れる「生き方」、食べ物は命であること等が大切。  
一日だけの収穫体験だけでなく、一貫して行うことにより「自然」と「命」の結びつきまで学べるのではないかと。  
子どもたちに大豆の種まきから草取り、収穫、そして味噌作り、最後に味噌汁を作って試食と、一貫して行っている。  
子どもが親子が目指を立てて活動して、その成果を自己評価する  
例えば、「商店街の10年後のあり姿」を、子どもと一緒に考え実践するプロジェクト、  
「地域の特産品を子どもと一緒にPRし販売する」プロジェクトなど。

# 親子で地域を研究しよう

**住民参加への大切さ**  
親または親子で、地域の将来や課題、などについて(自ら課題を見つけ)研究すること。  
それにより、親も子どもも「地域の将来や課題を自分事」としてとらえるようになり、地域への愛着(郷土心)が高まる。  
また、たかひ(昔から住んでいる年配の人たちが中心となり地域社会を運営している中、若い親や次世代を担う子どもたちが  
主体的に自分事として地域の課題に取り組むことになり、地域に新しいアイデアや発想が導入される。  
加えて、特に地方都市での人口流出や若者の減少に歯止めがかけられ、世代間の交流が深まることとなる。  
神崎まちに開き、各地域にも異様な昔ながらの地域に伝わる物語があると思う。  
自分の地域に伝わる民話を親子で調べ、自分の地域に親しむ研究や愛着が増す。

**学びの場としての地域創生**  
どうしたら起業できるか、どうしたら地域が盛るか。  
親子関係でなく、ビジネスパートナーとしての切磋琢磨し研究とか。  
それが、結果的に、子連れ、親離れの新たな創造の一助にならないか  
実際に成果をあげさせる  
まちのイメージキャラクターを作る。親子で考える。まちをもう一度見つめなおす。  
まちのイメージキャラクターを考えるということは、まちを知っているだけでは片手間でいい。  
親子にとっては、親から子どもへ一方通行の教育ではなく、「一緒に頭を悩ませる」共同作業を行うことで、従来にも増して親子関係がより良くなる。  
地域資源とビジネスを考えることにより、親も自立できる。

# 役所を味方につける方法

**絶対にはやめろ**  
絶対にやめろアプローチは、年配者からヤンママへの「上から目線」である。説教はやめよう!  
上の人の言い分や節制の押しつけは、やめよう!  
つまり、「今どきの若者は」「母親はこうあるべき」に一方通行の指導をすることは、極力避けたい。  
ヤンママが、シングルマザー予備群にならないよう、アプローチ  
ヤンママが先輩、先輩で言い合うのは、ちょっと疑問 フラットな組織化が必要?  
朝夕のあいさつ、笑顔、親しみをこめて、上から目線で話さない、偏見を持たない。  
わかりやすい、優しい言葉で話す。若い方でもしつこくとした考えをもっている方もたまにさん。  
「若い知恵が必要だ」「次世代を担うのは皆さん(ヤンママ)だ」「是非この地域を助けてくれ」と伝える。「力を借りたい」という姿勢が必要。  
何見もたずその人の気持ちを持って支援する

**公的サービスとしての役割理解**  
行政に対し、「役所なんだからやってくれ当然」という態度を取らず、役人の立場に立って物事を考える。  
また、「役所にやってもらおう」ではなく、「役所の力を借りて一緒にやる」というスタンスをつとめる。  
役所はサービス産業ではなく、公的サービスである  
良い意味で、行政をあてにしないで自立して行動する。あるいは、地域活動を、地域に留めたいと外向きに活動している。  
外に向かっても広がる地域づくり

20120609 15:15~16:15 兼習フスタ第一分科会  
「子どもの未来に今親たちができること」  
このまとは、当日の内容をコーディネータの視点から再構築したものです。

川島高之(コナカラニッポン代表)  
筒井秀夫(流山市マーケティングディレクター兼推進室長)  
澤田聡美(神崎まちづくり課 副主査)  
コーディネーター-西村美東子(聖徳大学生涯教育文化学科教授)

分科会目標(1時間で達成できる目標とします)  
①親子による地域参画活動の楽しさや方法がわかる。  
②子育てまちづくり活動参画による子育ての改善効果がわかる。  
③まだまだたくさんの楽しい活動ができることを実感する。  
④若い母親や行政、たがいの良さや持ち味を生かしながら一緒に活動するコツがわかる。

親子が地域の人々と学びあい、支えあう  
生涯学習まちづくりの推進

親子参画型まちづくり活動は、人と暮らしが見える活動だ。  
仮想体験でも「切り取った仕事」は見えない、人や暮らしは見えない。  
現実体験でも、人が、暮らしが見えるようになる。  
そのことが個人完結型から社会開放型子育て観への転換を実現するだろう。